

体験記 ライティング支援連続セミナー 知識と言葉をめぐる冒険

大学で身につけたい言葉の力 Lesson 1

疑うことから始めよう - 批判的に読む -

アドミッションセンター

島田康行 先生

中央図書館ラーニング・アドバイザー 坂井彩希 さん（人間総合科学研究科）

第3回目のセミナーを担当して下さったのは、人文社会系の島田康行先生（アドミッションセンター）でした。

今回のセミナーにて島田先生がお話して下さったことのポイントを一言でまとめるとするならば、文献を「批判的に読む」ということでした。「批判的に読む」とは具体的にはどのようなことであるか、それは「書き手の論理の進め方を他の可能性も含めて検討していくこと」であると先生はおっしゃっていました。このことは換言すれば、書かれている文章の解釈や論理的展開、結論などをそのまま鵜呑みにするのではなく、「他の可能性はないか？」と一歩引いて、疑って読むことと言えるかと思います。そして「批判的に読む」ということは、書かれていることを全否定したり、認めなかったりということでは決してなく、他の可能性を検討した上で、妥当性が担保されていると判断できれば、それを受け入れることであるとも言われていました。

先生は、このような「批判的に読む」ということは、「批判的思考」を行う上で重要であるとおっしゃっていました。「批判的思考」とは、自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的・熟慮的思考のことであり、そうすることで自分自身のバイアスに気づくことができるのだそうです。



今回セミナーを受けて、このような「批判的に読む」ということは、私たちが卒論や修論に取り組むにあたって、先行研究を検討する段階や自身の書いた文章を推敲する際にとっても役立つのではないかと考えました。主張の根拠として、情報を適切に入手・使用することができるか、書いた文章の論理展開に矛盾や飛躍はないかなどを検討すること、すなわち批判的思考を行うことは、研究を行う上で重要なプロセスであり、その第一歩にあたるのが「批判的に読む」ことなのだと思います。

最後に、セミナーにて先生が用意して下さった問題のうちひとつを載せてみるので、この体験記を読まれているみなさんも、興味があれば一緒に考えてみてください♪

Q. 次の文章には、主張と根拠の関係に問題があるようです。どのような問題があるか、指摘してみましょう。

大学生の学力低下は年々深刻化の一途をたどっている。アンケートによると、なんと6割を超える大学教員が、自分の学生時代と比べ、現在の学生の学力は低いと思う、と答えたそうだ。

A.

- 何をもって「学力」とし、どのような状況を指して「低下」とみなしているのかわからない
- 「年々深刻化の一途をたどっている」と表記されているのに、主張を述べる上でのデータ（事実）は、一時点のものしか用いられていないが、結論に妥当性はあるのか
- そもそも大学教員になる層は、大抵の学生よりも「学力」は「高い」のではないか

大学で身につけたい言葉の力 Lesson 2

考えの述べ方 -主張の「構造」-

中央図書館ラーニング・アドバイザー 金井雅仁 さん(人間総合科学研究科)



自身の考え、すなわち主張を述べる文章には、正しい作り方があります。文章の種類には様々なものがありますが、主張を述べる文章を正しく書けるということは、非常に重要なことです。主張を述べる文章は、ただ綴るのではなく「構築する」必要があります。文章を構築する上では、論証文の構造をとることが重要となります。

論証文の構造は、起承転結ではありません。起承転結が意識された文章は論証文としては不適合です。論証文は「序論(主題の提示)・本論(主題の証明)・結論(主題の繰り返し)」という三段構造をとります。序論では、自身の主張を述べます。本論では、自身の主張を支持する事実やデータ等を挙げながら、自身の主張が正しいということに理由づけをします。ここでは、重要なことが先に述べられ、些末なことは後に述べられることが理想的です。結論では、主題の内容、すなわち自身の主張が繰り返されます。すなわち「私は○○である」と考える。その理由は△△、□□、☆☆である。したがって、○○である。」という構造になります。

また、論証文ではパラグラフ・ライティングという書き方が望まれます。パラグラフ・ライティングでは、各段落が1つのトピック・センテンスとそれに付随する(多くの場合1つ以上の)サポーティング・センテンスから成り立ちます。トピック・センテンスでは抽象度の高い主張の総論が述べられます。サポーティング・センテンスではトピック・センテンスに関する具体的な説明や例の提示がなされます。これを行うことで、段落が単なる区切りではなく、1つの主張を持ったまとまりになります。パラグラフ・ライティングについて詳しく知りたい方は、木下是雄氏の著書である「理科系の作文技術」という本を読んでみてください。

以上のことを踏まえ、今回のセミナーでは適切なパラグラフ作成のための問題演習も行われました。以下に、実際の問題を示します。興味のある方は回答してみてください。回答は【⑨】→【 】→【 】→【 】という形になります。ヒントは、トピック・センテンスである⑨の内容を反映するように、サポーティング・センテンスを選ぶことです。解答は、この体験記の最後に載せておきます。

【問】下の①～⑨のうちの4文を使って、⑨から始まるパラグラフを作ってみよう。

- ① 「金襴緞子の帯締めながら」という歌がかもし出すイメージには独特の懐かしさが付きまとう。
- ② 西欧諸国に見られることを意識した結婚式の作法をそこで作り出す必要があった。
- ③ だから神道式には実は、キリスト教の影響が色濃く見られる。
- ④ 皇太子の結婚式には西欧諸国からの来賓が招待された。
- ⑤ 神道式の起源は1900年(明治33年)当時皇太子だった後の大正天皇が、現在の神道式に非常に近い形で挙式したのが初めてだといわれている。
- ⑥ 古来日本の挙式では、人前式を挙げた後、神社に参拝することはあっても、神社で挙式をすることは稀であった。
- ⑦ 今時は、白無垢で結婚式を挙げる女性はほとんどいないという。
- ⑧ 日本には「神の前で誓う」という発想そのものが希薄だったのである。
- ⑨ 神道の結婚式の歴史は実は意外と浅く、明治以降の日本の国際社会での立場を反映したものである。

主張を述べる論証文の書き方には決まりがあります。意識せずに行うのは難しいものかもしれませんが、書き方を意識すれば、皆さんの書く文章は途端にきれいな形式の論証文になると思います。この体験記を読んでいる方に伝えたいことは以上です。

(解答:⑨→⑤→④→①)



これまで開催したライティングセミナーの概要や講義資料はWebページでチェック!

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/writing_seminar/chishikitok

次回、野村港二先生のセミナー体験記をお届け!